

公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟

2021年6月通常総会議事録

日時：2021年6月17日（木） 13:00～15:40

場所：東京都千代田区 TKP九段下神保町ビジネスセンター 3A

出席者：1頁参照

## 1. 開会

司会の芦川理事より開会が宣言された。

## 2. 会長挨拶

内田会長から日頃の連盟活動への協力に対して感謝の意が表明され、本総会議事進行に対して協力をお願いした。

## 3. 感謝状の贈呈、本通常総会概要説明等

感謝状贈呈の前に、宮城県ハング・パラグライディング連盟前理事長の故尾形梅三郎氏に対して黙祷を捧げた。

2019年に国体デモスポ行事を開催し、普及と振興に貢献をした茨城県ハング・パラグライディング連盟に感謝状が贈られた。

茨城県ハング・パラグライディング連盟 板垣理事長：一昨年にパラグライダー、ハンググライダーのデモスポ大会を開催した。パラグライダーはJPAと共同開催となり、優勝はJHFの荒井大悟選手、ハンググライダー優勝はハング競技委員長でもある牟田園明選手が優勝。石岡市長も来てよい大会が開催出来た。感謝状をいただいたことに感謝し、今後の活動に繋げていきたい。

新型コロナ感染症対策により、日本学生フライヤー連盟の齋藤達也理事長が出席出来ないため、報告文書を預かり司会が読み上げた。新歓の状況では、新型コロナウイルス対策を行い昨年より体験会が出来たこと、大会では、大人数の宿泊が難しいので規模縮小での開催になるが、安全を第一に企画、運営をしていき、多くの方々に空を飛ぶ魅力や楽しさを伝える活動をしていきたいとの報告があった。

## 4. 定数の確認・議事録作成人の指名

司会より、議事進行上の注意事項と、会議運営の説明が行われた後、本総会の出欠確認をした。

出席確認：

出席正会員 2名、委任状 0名、議決権行使 44名、欠席 1名

合計出席者 46名

総正会員の過半数の出席を得て、本総会は成立した。

議事録作成人の指名： 事務局長 桜井加代子

議事録署名人： 出席理事・監事

定款により内田会長が議長となった。

## 5. 総会の目的事項

### 報告事項1 2020年度事業報告について

内田会長から、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて国内大会、国際大会が中止になったが、日本選手権は開催が出来たこと等、事業報告の概要説明が行われ、質疑に入った。

神奈川県連： 会費改定があったが、振込の会員を見ると、旧会費額で3年分振込が出来た会員と、自動振替で1年分のみの旧会費額での引き落とししか出来なかった会員がいる。3年分振込は出来ないと考えていたので、不公平である。その点の回答をお願いしたい。

小林副会長： フライヤー登録の締め日のことなので難しい。

議長（内田会長）： 昨年9月の総会で会費改定を決めて、年度末を境に値上げの請求をすることは案内していた。会費の更新案内は有効期限の2ヶ月前に出しているため、人により状況は異なるが、告知と更新事務は公正に行われた。

### 報告事項2 2020年度決算報告・監査報告について

市川理事から2020年度決算については、経費削減、新型コロナウイルス感染拡大の影響による事業縮小、予算の未消化、リモートでの会議、理事の日当返上等により一時的に手元資金が残った旨の報告、説明の後、内田会長より補足説明があり質疑に入った。

神奈川県連： 会費収入が会員登録数と金額が合わない。事務局の人件費が少なくなっている。

議長（内田会長）： 会費については、会費改定前3月末迄に3年会費支払が多かったと思われる。人件費については公益目的事業費の関係で、収支計算書では管理費と事業費に振り分けている。コロナ関連で事業費のバランスが変わっている。職員それぞれの給与は変わっていない。

神奈川県連： 3年会員の会費は一度に収入にはしないとされていた。

議長（内田会長）： 3年会費でも収入にはなり、2年分は運営基金積立金としている。

大森監事より監査報告があった。

### 決議事項1 貸借対照表および損益計算書（正味財産増減計算書）の承認について

議長（内田会長）： 報告事項2の中で説明された、貸借対照表および損益計算書（正味財産増減計算書）並びにその附属明細書および財産目録について承認、決議をお願いします。

決議事項1について採決し

【賛成：45（賛成2、議決権行使43） 反対：0 棄権：1（議決権行使1）】  
で承認された。

### 報告事項3 2021年度事業計画について

内田会長から2021年度事業計画について説明を行い、質疑に入った。

岡山県連:事業計画の具体的内容を出して欲しい。愛好者増加の推進について等は活動が進んでいないと感じる。今後、報告にも盛り込んで欲しい。

小林副会長:ハングパラ振興委員会が試行錯誤しながらやっている。具体的な計画、報告としては委員会報告を見ていただきたい。ご意見の主旨を今後検討する。

議長(内田会長):事業計画についての質疑である。事業報告は別事項なので混同をしない方がよい。

### 報告事項4 2021年度収支予算について

市川理事から収支予算について説明を行い、内田会長の補足の後に質疑に入った。

岡山県連:予算にある広報事業費は具体的にどのような費用か。

議長(内田会長):年4回のJHFレポート発行費用である。経費削減で紙での発行は時代遅れと言われるが、収入で日本スポーツ振興センターから助成金をもらっている。これを止めても大きな財政的な効果はない。

岡山県連:5年先、10年先は会員数4千人を切るレベルだと思われる。会費の上限を長期スパンで考えているのか。非常識な会費にして欲しくない。一般会員は保険しか恩恵がない。予算の考え方を検討して欲しい。

議長(内田会長):昨年9月総会で会費値上げの決議をしたが、その時のシミュレーションをした中で、値上げ額を1万円等とする案も出た。昨年度決算では遊休財産より公益事業費が下回ったほどで資金が残ったが、ストックがあっても減り始めたらすぐ消える。JHFがなぜあるか、40数年前にハンググライダーが日本に入った際に、行政機関へ3つの自主規制を行ったことから、現在のように自由に飛べるようになった。内閣府へ提出している事業内容は公益法人として公益事業とその他を報告しているが、保険はない。保険だけでよいとなるとJHFは将来公益でなくなる心配がある。

岡山県連:理想論はわかっているが、現実と乖離している。JHFではない団体もあるので、他団体に所属出来る。地方の現状を見て欲しい。競技に出ている会員は少ない、検定会も開催出来ない、他のエリアへ行かないのであれば、ライセンスも不要。保険は個人で入っても、会費の金額と変わらない。JHFのメリットがない。

茨城県連:2月ハング日本選手権が中止、パラ日本選手権も中止になり、予定していた和歌山県連より茨城県で開催出来るなら開催して欲しいと打診があった。予算はどうなるか。

議長(内田会長):現場で検討し競技委員会を通じて提案を出していただきたい。

### 決議事項2 JHF役員選任について

役員選任実行委員会鈴木委員長から、JHF役員選任について、今回は新型コロナ対策もあり郵送での投票になった旨等の説明があり開票作業に入る。

(立ち会い県連:神奈川県連、静岡県連)

議長(内田会長):開票作業の間に意見交換会を行いたい。

京都府連:岡山県連から予算の時に不安という意見が出た。コロナ禍の影響で全世界のハンググライダーメーカーまで波及し、またスクールが稼げない状態もどうなるか分からないが、組織の中で理事

会、委員会の皆さんはボランティアでがんばってやってくれている。それは岡山県連さんもお理解ください。今は学生も大変で、年寄りのサポートも必要である。その中で、ハングの北野正浩さん、鈴木由路さんのおかげで念願のハング教本が出来、新しい情報も入っている。また、荒神山のエリアは地元の協力を得てハングライダーベースが出来た。彦根市も協力してくれている。新しく教員、助教員の育成も出来るように考えている。トーイング技能証をJHFの委員会で進めて欲しいと思う。

議長（内田会長）：役員選任実行委員会の開票作業が終わったようなので委員長に願います。

役員選任実行委員長：1人ずつ信任していく形で投票の結果を発表する。

有効投票総数41票のため、21票をもって信任になる。

芦川36票、大澤31票、小林35票、竹村35票、橋田35票、濱田34票、安田35票、

山口36票、岩村37票、大森37票

**理事は、芦川雄一郎、大沢豊、小林秀彰、竹村治雄、橋田明夫、濱田革、安田英二郎、山口隆文8名、監事は岩村浩秀、大森健一2名で全員が信任されました。**

議長（内田会長）：では決議事項2として、役員には定款並びに役員選任規約に基づき、今の発表で全員について一人一人決議されたということになった。ありがとうございました。

**決議事項2について決議終了した。**

神奈川県連：今後公益法人として外部理事を入れたらどうか。また、今回立候補されなかった役員の方の理由を聞きたい。

役員選任実行委員長：外部理事については委員会でも検討している。フライヤー登録をして、正会員からの推薦があれば現在も立候補は可能。今後も検討する。

議長（内田会長）：理由と言われると、今の体制、運営状況でJHFでの責任が取れないため、立候補は一旦しないことにした。2年前からプレッシャーがあり、JHFの信用が半減するので外部に対して会長を続ける形は守ってきた。おかしくなるようなら2年後に立て直す。

殿塚理事：パラグライダーの愛着や将来のことではなく、仕事でもパラグライダーをやっているので日頃からどういう形がよいか考えている。一度理事から離れ現場の活動に力を入れて、今後益々皆様にはご協力と応援をいただけたら幸いである。よろしくお願いします。

市川理事：社団法人から公益社団法人になる際に、3法特別委員会の皆様とすべての手続きをし、その後も主務官庁への対応をやって来た。内田氏がやってきた部分は重要で、JHFが出来た当初の前例も分かり、今までに起きた問題にJHFとして対処してこられた方なので、微力ながらサポートして来た。内田氏が辞められるとのことで、私もそろそろ引退かと考えた。新しい考え方の方々が動いていくことも必要と思う。お手伝い出来るところはボランティアでお手伝いしていきたいと思う。今後ともよろしくお願いします。

## 7. 閉会

司会より出席者、会長、バーチャル総会でシステムを請け負って協力してくれた牟田園さん、村上さんに謝意が表明され、閉会が宣言された。

この議事録が事実と相違ないことを確認し、記名捺印する。

令和3年6月17日

議長・理事 内田孝也 印

理事 芦川雄一郎 印

理事 市川 孝 印

理事 大澤 豊 印

理事 小林秀彰 印

理事 殿塚裕紀 印

理事 安田英二郎 印

監事 大森健一 印

議事録作成人： 桜井 加代子